

Press Release

2008年6月19日
王子製紙株式会社
王子ネピア株式会社
財団法人日本ユニセフ協会

トイレと水の問題で失われてゆく命を守りたい ネピア ユニセフタイアップ キャンペーン

「nepia 千のトイレプロジェクト」

～あなたの選ぶネピアが、子どもたちを守るトイレになる～

1000toilets.com 2008年7月1日(火)～10月31日(金) 日本全国で展開

王子製紙株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:篠田 和久、以下:王子製紙)、王子ネピア株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:林 孝治、以下:王子ネピア)、および財団法人日本ユニセフ協会(所在地:東京都港区、会長:赤松 良子、以下:日本ユニセフ協会)は、開発途上国のトイレと水の問題を改善するため、「nepia 千のトイレプロジェクト」を立ち上げます。2008年7月1日(火)から10月31日(金)までをキャンペーン期間とし、日本全国で展開いたします。

王子製紙グループは、「環境と文化への貢献 革新とスピード 世界からの信頼」を企業理念に、世界中での植林をはじめ、社会への貢献活動を展開しています。また、王子ネピアは、“やわらかいハード”のスローガンのもと、すべての商品を通して、皆様の健康的で快適な暮らしのお手伝いを目指しております。国際衛生年にあたる今年、家庭の衛生にたずさわる商品を届ける企業である王子ネピアは、王子製紙グループの一員として、世界の「トイレと水の問題」を見つめ、本プロジェクトを立ち上げることとなりました。

世界では、毎年150万人を超える5歳未満の子どもたちが、汚れた水とトイレの不備からおなかをこわし、脱水症状などで命を落としているという事実があります。「nepia 千のトイレプロジェクト」では、キャンペーン期間中にお客様にお買上げ頂いたネピア対象商品(ティッシュ、トイレットロール)の売上の一部で、ユニセフの「水と衛生に関する支援活動」をサポート。アジアで一番若い独立国で、国づくりが進む今が重要な時期である、東ティモール民主共和国(以下:東ティモール)を支援対象国として、1,000の家庭のトイレの建設と、15の学校のトイレの建設または修復、衛生習慣の普及と定着のための活動を支援し、ネピア商品を選ばれたお客様の想いととも、東ティモールの子どもたちとその家族の命と健康を守ることを目指します。

本プロジェクトでは、ウェブサイトやキャンペーン実施企業の店頭での告知をはじめ、世界の「水と衛生の問題」への関心と理解を広げていくための、さまざまな活動も展開してまいります。

まず、キャンペーン期間に先駆け、2008年4月に王子ネピア社員が東ティモールを訪問。現地の状況とユニセフによる支援活動の様子を、ウェブサイト(<http://1000toilets.com>)でレポートします。また、視察に同行した写真家の小林紀晴氏による写真展を2008年8月15日(金)から25日(月)までの11日間、東京・渋谷の東急文化村・Bunkamura Galleryにて開催いたします。小林氏がファインダーを通して写し出す、東ティモールの子どもたちや人々のさまざまな表情をご紹介します。プロジェクトへの理解を深めていただくよう努めてまいります。キャンペーン期間終了後には、慶應義塾大学・井上哲浩教授をコーディネーターとしてシンポジウムを実施(11月予定)。プロジェクトの成果報告と検証をもとに、今後の、継続的で有効な社会貢献のあり方などを考えてまいります。

王子製紙、王子ネピアおよび日本ユニセフ協会は、「nepia 千のトイレプロジェクト」を通して、わが国において、世界の「水と衛生の問題」への関心を高め、理解を深めることに努力してまいります。

< 本件に関する報道関係からの問い合わせ先 >

「nepia 千のトイレプロジェクト」

広報担当:株式会社ノエル・コミュニケーション 鈴木 斉藤 南雲 町田

Tel:03-3760-9690 / Fax:03-5408-8433 / email:press@noelcom.co.jp

お客様からのお問い合わせ先:「nepia 千のトイレプロジェクト」事務局 Tel:03-5280-5048

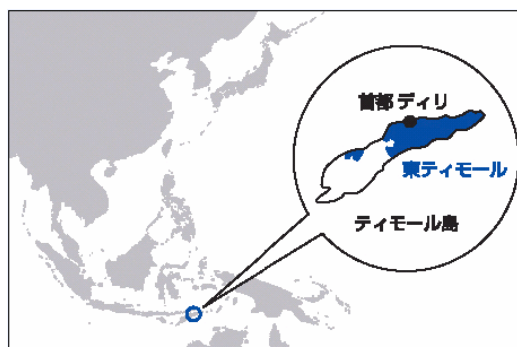
参考資料

【「nepia 千のトイレプロジェクト」の概要】

支援国・東ティモールについて:



東ティモール民主共和国



東ティモール民主共和国は、2002年5月に独立したアジアで一番若い国です。建国以来、国際社会の協力を得ながら国づくりが進められていますが、国民の10人に4人以上は、1日1~2米ドル以下の生活を強いられています。5歳未満児の死亡率は出生1,000人あたり130人に及び、アジアの中で子どもの生存が厳しい国のひとつであり、汚れた水とトイレの不備から、5歳未満の子どもの5人に1人が下痢をわずらっています。特に農村部のトイレと水の環境改善は緊急の課題であり、2006年のユニセフの調査では、農村部人口の77%がトイレを利用できない環境にあること、61%の学校がトイレと給水設備の改善を必要としていることが分かりました。(ユニセフ東ティモール事務所調べ)

プロジェクトの目標:

今回のプロジェクトでは、東ティモールの3つの地域(エルメラ、リキサ、オエクシ)を対象に、トイレの建設・修復、衛生概念の啓発、衛生習慣の定着活動を通じて、子どもたちとその家族約13,000人が健康に暮らせる環境づくりを支援します。トイレの建設を含むプロジェクトの実施にあたっては、ユニセフやNGOの指導・協力のもと、住民が主体となって、建設作業や啓発活動が実施されます。

家庭用トイレ:1,000の世帯に、家庭ごとの専用トイレを設置します。トイレの形状・システムは、農村部で住民が持続的に使用できるものになります。

学校用トイレ:15の学校で、手洗い場のついた男女別のトイレの建設、または修復を行います。学校にトイレがあると、就学率が上がり、また中途退学率が下がることが明らかになっています。

トイレの設置は、衛生的な環境を保ち、個人のプライバシーを守るためにも、緊急を要する課題です。

プロジェクトへの参加方法:

2008年7月1日(火)~10月31日(金)のキャンペーン期間中、キャンペーンの対象となるネピア商品をお買い上げになるだけで、どなたでもプロジェクトに参加できます。対象商品取扱店は、「nepia 千のトイレプロジェクト」ウェブサイト(<http://1000toilets.com>)内、キャンペーン実施企業ページでご覧になれます。

キャンペーン対象商品

ネピア デラックストイレットロール

ネピアティッシュ

ネピア ネピネピトイレットロール

ネピア ネピネピティッシュ



12ロールシングル 12ロールダブル 8ロールダブル



200組×5個パック



18ロールシングル 18ロールダブル 12ロールシングル 12ロールダブル



160組×5個パック

対象商品のうち、ネピア デラックストイレットロールダブル(8ロール)については、地域限定発売となります。

プロジェクトを広くお伝えするため、プロジェクトの告知をデザインした商品もご用意しています。

プロジェクト告知デザインパッケージ(一例)



また、郵便振替での募金でもこのキャンペーンに参加することができます。

郵便振替口座:00190 5 31000

口座名義:(財)日本ユニセフ協会

通信欄に「ネピア」と必ず明記ください。

窓口でのお振込の場合は、送金手数料が免除されます。

郵便振替での募金の場合は、(財)日本ユニセフ協会より領収書が発行されます。(財団法人日本ユニセフ協会への寄付金は、特定公益増進法人への寄付として税制上の優遇措置の対象となります。詳しくは日本ユニセフ協会のホームページ <http://www.unicef.or.jp> をご覧ください。)

写真展について:

展覧会名:nepia 千のトイレプロジェクト 東ティモール写真展「うんちをする。僕らは生きている。」(仮)

日時:2008年8月15日(金)~8月25日(月) 10:00~19:30(期間中無休)

会場:東急文化村 Bunkamura Gallery

東京都渋谷区道玄坂 2-24-1 渋谷東急文化村 1F



写真家:小林紀晴(こばやし きせい)

1968年、長野県生まれ。アジアの旅先で出会った日本人の若者の姿を写真と文章で綴った「ASIAN JAPANESE」でデビュー。

多くの若者の絶大な共感を呼び、「DAYS ASIA」で

1997年度日本写真協会新人賞受賞。

日本で最も注目される写真家のひとりとして、

次々と意欲的な創作に取り組んでいる。

最新の写真集は、「はなはねに」。

王子製紙について:

王子製紙グループは、日本で初めて本格的な近代産業として製紙業を開始しました。創業者である渋沢栄一翁の言葉「論語と算盤」、すなわち道徳と経済の合一、倫理と利益の両立という理念を受け継ぎ、事業遂行の基本的精神を表現するものとして、「環境と文化への貢献」、「革新とスピード」、「世界からの信頼」を企業理念としています。「環境と文化への貢献」では、王子製紙は1873年の創業以来約130年間、「読む」「書く」「包む」「拭く」生活のさまざまな場で用いられる紙の安定供給を通じて文化に貢献する会社であることを基本理念としてきました。同時に、森のリサイクル、紙のリサイクルの推進により積極的に環境保全と循環型社会に貢献する企業であることを目指しています。具体的には、海外での植林を1970年代からはじめ、現在では植林面積を2010年度までに30万ヘクタールに拡大するという目標を掲げ、取り組んでいます。(<http://www.ojpaper.co.jp>)

王子ネピアについて:

王子ネピアは、企業理念である「生活文化への貢献 環境への貢献 社会からの信頼」のもと、“やわらかハート”というスローガンを掲げ、すべての商品を通じて皆様の快適な暮らしのお手伝いを目指しております。ティッシュやトイレットロールをはじめとしてキッチンタオル、赤ちゃん用紙おむつ、大人用紙おむつにいたるまで、お客様の生活に幅広く密着したかたちで、やわらかな肌ざわり、やわらかな使い心地の追求を続けてまいりました。また、社会貢献に関しては、女性の健康ばかりでなく女性を取り巻くすべての人の「幸せを守る」という活動の趣旨に共感し、2003年から「ピンクリボン運動」の協賛を継続し、乳がんの早期発見、早期診断、早期治療の重要性を訴える運動をサポートしています。「nepia 千のトイレプロジェクト」については、昨年より、日本トイレ協会のご協力により「うんち教室」としてうんちと健康に関する授業を、日本の首都圏の小学校にて展開してきましたが、うんちを通して、社会のために、世界のために、もっと何かできることがあるのではないかと、その想いのひとつの形として本プロジェクトを発足いたしました。

(<http://www.nepia.co.jp>)

ユニセフについて:

ユニセフ(国際連合児童基金)は、世界150以上の国と地域で、生誕から青年期まで、子どもたちの健やかな成長を守るために活動している国連機関です。ユニセフは、開発途上国で男女を問わずすべての子どもたちに保健や栄養、水と衛生、教育などの基

本的なサービスを普及、また、暴力や搾取、HIV/エイズの脅威からの保護など、様々な支援事業を展開しています。活動資金は、すべて個人や企業・団体からの募金と、各国政府からの任意の拠出金で支えられています。

40年以上にわたり、ユニセフは安全な水と衛生施設を必要としている人々に提供するためのプログラムを実施しており、井戸やトイレの建設や水と衛生に関する基本的知識や衛生観念の普及活動を展開しています。「安全な水と衛生の確保」はユニセフが中期事業計画(2006年～2009年)で掲げる5つの重点分野のひとつ「子どもの生存と発達」に含まれる事業で、様々な政府機関やNGO等のパートナーと協力しながら活動しています。

東ティモールでは、2000年以降、水と衛生分野への活動を実施しています。(http://www.unicef.org)

日本ユニセフ協会について:

財団法人日本ユニセフ協会は、先進国36カ国にあるユニセフ国内委員会のひとつです。日本国内において、民間で唯一ユニセフを代表する組織として、ユニセフ活動の広報、政策提言(アドボカシー)、募金活動を担っています。

(http://www.unicef.or.jp)

【王子製紙会社概要】

会社名：王子製紙株式会社

代表者：代表取締役社長 篠田 和久

本社所在地：東京都中央区銀座4-7-5

設立日：1873年(明治6年)2月12日(財閥解体後の設立1949年(昭和24年)8月1日)

資本金：103,880百万円(2005年3月末現在)

業務内容：・各種パルプより一貫して一般洋紙、包装用紙、雑種紙、ノーカーボン紙、衛生用紙、段ボール原紙及び白板紙などの製造、加工並びに売買
・段ボール(段ボールシート・段ボールケース)、紙器、プラスチックフィルム、感熱記録紙、粘着紙及び紙おむつなどの加工品の製造並びに売買
・社有地の活用による土地及び建物の賃貸など
・国内外での植林事業と社有林の維持管理
(グループ会社によるものを含む)

URL：http://www.ojpaper.co.jp

【王子ネピア会社概要】

会社名：王子ネピア株式会社

代表者：代表取締役社長 林 孝治

本社所在地：東京都中央区銀座5-12-8

設立日：1971年3月19日

資本金：8億円

業務内容：ティッシュ及び紙パルプ加工品、ならびに紙おむつの製造、加工ならびに売買

URL：http://www.nepia.co.jp

【日本ユニセフ協会概要】

名称：財団法人日本ユニセフ協会

代表者：会長 赤松 良子

所在地：東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス

設立日：1955年6月9日

概要：ユニセフ(国際連合児童基金)の趣旨に則り、児童の福祉増進に寄与するため、国民の間に国際理解及び国際協力の精神を涵養し、あわせて国民による国際協力の実施を促進することを目的とする。

URL：http://www.unicef.or.jp